教 育 研 究 業 績 書

2002年　10月　10日
氏名　　安 部　清 哉

	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
	〈著書〉【単著】				
1	『日本語のルーツを探ったら』	単	1997・4	アリス館	日本語の成り立ちについて、基本的研究方法、これまでの研究史、代表的学説などを紹介しつつ、新しい説を提示し、それが、文化人類学的研究における日本文化の成り立ちとも一致することを指摘する。高校生以上一般向け解説書。1―142 頁
2	『日本語の歴史地理的研究』	単	2001・4	私家版	これまで執筆した日本語の歴史・方言関係の論文を、授業テキスト用に簡易冊子に製本したもの。1―535 頁
3	『日本語形容詞語彙年表作成とその資料・語彙分析における活用法に関する基礎的研究』	単	2001・4	私家版	文部省平成 10―12 年度科学研究費(基盤研究(c)(2)研究成果報告書、代表・安部。1－86 頁 科学研究費の研究報告書。
4	『語彙論・意味論研究図表集』	単	2002・4・1	私家版	これまでの日本語学における語彙論・意味論の研究論文の中から内容をまとめた図表を含むものを中心に大学テキスト用に編集したもの。
	【共著】				
5	『日本語の歴史地理構造』	共	1997・7	明治書院	「古代日本語野動詞重複形（reduplication）二種の語法と方言分布及びその言語類型地理論的問題」を執筆。担当：61―71 頁、編者:加藤正信
6	『国語論究6近代語の諸相』	共	1997・7	明治書院	「〈禿頭〉の言語理知学的解釈と地方方言史の対照」を執筆。担当：350―370 頁、編者:佐藤喜代治ほか
7	『日本語文法―体系と方法』	共	1997・10	ひつじ書房	「動作の併行表現の歴史――上代　動詞終止形重複形・動詞連用形重複形」を執筆。担当 133―152 頁、渡辺実博士古希記念論集刊行会
8	『日本語研究法[古代語編]』	共	1998・10	おうふう	「『土佐日記』の形容詞語彙の特徴」を執筆。担当 95―108 頁、ほか「文献の探し方」179―189 頁。編者:青葉ことばの会
9	『異文化交流と近代化――京都国際セミナー1996――』	共	1998・7	大空社	「『和英語林集成』の口語形容詞――J. C. ヘボンの見た近代日本語の文体差――」を執筆。担当 175―181 頁、松下釣編。
10	『フェリス日本語テキスト　文法と会話』	共	1999・3（2002・3改訂版）	私家版	安部清哉・新居田純野編著。共同執筆につき、担当部分抽出不可能。全160頁。
11	『語彙・語法の新研究』	共	1999・3	明治書院	「古代日本語における古い語彙・音韻と新しい語彙・音韻の言語類型論的比較研究の可能性」を執筆。佐藤武義編、1～17 頁
12	『国語論究8国語史の新視点』	共	2000・11	明治書院	「日本語史研究の一視点－－方言国語史の視点から－－」を執筆。pp1～38。
13	『語から文章へ』	共	2000. 8	東北大学国語研究室	「和漢混校の史的変遷における語の『意味負担領域』－－「とし」「スミヤカ」「早し」の場合－－」を執筆。遠藤好英編、1―15 頁。
14	『秋田方言研究のための語彙表台帳－－市町村方言集語彙対照表－－』	共	2000・3	私家版	安部清哉・工藤香寿美編著. 共同執筆のため担当部分抽出不可能。p1～85。
15	『グロータース神父記念論集言地理学の課題』	共	2002・5	明治書院	「方言地理学から見た日本語の成立－－第3の言語史モデル理論としての“Stratification Model”－－」を執筆。pp.236-250.

教 育 研 究 業 績 書

2002年 10月 10日
氏名　　安 部　清　哉

	著書、学術論文等の名称	単著、共 著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
	【学会発表】 (国際学会での発表のみ。国内での学会研究会での口頭発表は省略。発表要旨集掲載論文と重複する)				
1	‘Several Strata in the Historical Formation of Japanese Dialects’	単	1997･7･28	Book of abstracts of 2nd International Congress of Dialectologists & Giolinguists, 1997･7･28～8･1,The International Society for Dialectology and Giolinguistics、in Amsterdam,Holland(国際方言学地理言語学会)	
2	‘Climate,Culture and Language	単	1999･8･5	Proceedings of 12th World Congress of Applied Linguistics (AILA ’99 Tokyo),August 1-6,1999, Waseda Univ.,Tokyo,Japan,(第 12 回国際応用言語学会世界大会)	
3	「東アジア(日本語･韓国語･中国語)の河川地形名の偏在と方言分布･気候との相関」	単	2001･8･18	韓國日本學會(KAJA)第 63 回學術大會、大韓民国(大邱市)･慶北大学校	
	【その他】 〈月報〉				
1	「広本(文明)本節用集」「塵袋･蓋嚢抄･塵添蓋嚢抄」「近世の方言語彙集――『物類称呼』ほかー」「和漢音釈書言字考節用集」「下学集」岩波書店	単	1996･5－1998･7	岩波書店『新日本古典文学大系月報』69･78･82･83･87。	
	〈辞典の項目執筆〉				
1	『新版　日本国語大辞典』13 巻、小学館		2000－	基礎語検討委員会委員として項目執筆	
2	『日･中･英言語文化事典』マクミランランケージハウス		2000･5	614 項目中 20 項目執筆	
3	『中辞林』三省堂		2003予定	数百項目 (2005 年、編集が中止と決定される)	

教 育 研 究 業 績 書

年　月　日

氏名

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
【その他】 1				

教 育 研 究 業 績 書

2002年　10月　10日
氏名　安部　清哉

	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
16	【共著】 『『源氏物語』の魅力を探る』	共	2002・7	翰林書房	「『源氏物語』ほか平安和文資料における「とし」「スミヤカ」「早し」――意味負担領域から見る和漢混淆史――」を執筆。三田村雅子編.
17	『お国言葉を知る　方言の地図帳』	共	2002・6	小学館	安部（1991・8、共著）『方言の読本』の増補改訂版（100 頁増補。増補担当部分　14頁分）。
18	『日本語史概説』	共	2003 予定	白帝社	日本語の歴史についての大学・一般向概説書。第 2 章「平安時代の日本語」担当、飛田良文編・安田尚道・小野正弘・諸星美智直他。
19	【共編】 『ケーススタディ日本語の歴史』	共編著	2002・11	おうふう社	日本語の歴史について代表的トピック(清濁・ハ行音・動詞の活用など)ごとに、演習問題形式で問題を上げ解説した大学向けテキスト。4 名（半沢幹一・安部・小野正弘・金子弘）による共同編集執筆。執筆は「音便」「共通語」

教 育 研 究 業 績 書

2002年 4月 20日
氏名 安 部 清 哉

	著書、学術論文等の名称	単、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
	【雑誌論文】				
1	「もう一つの東西対立境界線“関東・越後線群”――『外日本＝中　日本対立分布』＝地図集」	単	1997. 8	『玉藻』33、113～133 頁、フェリス女学院大学国文学会	これまで気付かれていなかった新たな方言境界線20数本を提示してその問題を指摘。
2	‘Several Strata in the Historical Formation of JapaneseDialects’	単	1997･7･28	Proceedings of 2nd International Congress of Dialectologists & Giolinguists, 1997・7・28～8・1, inAmsterdam, The International Society for Dialectology& Giolinguistics,	オランダでの国際方言学言語地理学会における英語での発表。日本語の方言分布の成立過程には、分布時期と分布範囲が異なる幾つかの段階的言語層があることを明らかにする。
3	「日本列島上の歴史と文化におけるもう一つの東西対立境界線“関東・越後線群”――『広日本－中日本対立分布』＝地図集（人類学・考古学・民俗学篇）」	単	1998.3	『フェリス女学院大学文学部紀要』33、1～31 頁	日本語の方言分布境界線として新たに指摘した関越線の位置に見られる文化的分布境界線を、人類学・考古学・民俗学などの諸分野から指摘する。
4	「日本語におけるもう一つの東西対立境界線“関東・越後線群”――『広日本－中日本対立分布』＝地図集（言語篇2）――」	単	1998.3	『立正大学国語国文』36、29～37 頁、立正大学国文学会	新たな方言境界線について 5 項目を取り上げて考察したもので、境界線の内側と外側とで時代的段階的相違を指摘。
5	「言語地理学から見た方言境界線“関東・越後線”と方言区画」	単	1998. 5. 31	『国語学会平成 10 年春季大会要旨集』	新たな方言境界線の解釈を通して方言区画論を検証する。
6	「日本列島上の歴史と文化における分布境界線”関東・越後線群　“――人類学・考古学・民俗学・気候学篇＝地図集Ⅱ――」	単	1998. 10	『玉藻』34、フェリス女学院大学国文学会、61～95 頁	新たに指摘した文化圏境界線の位置に見られる文化的分布境界線を、人類学・考古学・民俗学・気候学などの諸分野から指摘した続編。
7	「古代語からみた『ひな』と『みやこ』――王化の最前線としての『あづま』――」	単	1999.2	『別冊歴史読本　古代史『王城と都市』の最前線』、192-201 頁、新人物往来社	古代語における中央と地方の相違を、奈良時代の方言と現代方言の両面から考察したもの。
8	「東西方言の諸相と日本語史の課題」	単	1999･5	『日本語学』18―5、明治書院、35～46頁	日本語の歴史的研究上における東西方言対立の問題点を考察。
9	`Climate, Culture and Language’	単	1999･8･5	Proceedings of 12th World Congress of Applied Linguistics (AILA’99Tokyo), August 1-6, 1999, WasedaUniv., Tokyo, Japan, (第 12 回国際応用言語学会世界大会)	日本語の形成過程における気候の影響及び、方言分布と文化的地理的相違の相関性を指摘したもの。
10	「日本列島におけるもう一つの方言分布境界線“気候線”」	単	1999･10	『玉藻』35、フェリス女学院大学国文学会	日本語方言における気候の南北相違を背景にした新たな方言境界線と諸文化境界線との相関を指摘。
11	「鎌倉時代十四文学作品の形容詞用例数語彙表」	単	2000･5	『玉藻』36、フェリス女学院大学国文学会、pp173～215	鎌倉時代の語彙研究のために 14 文学作品の形容詞の使用頻度を一覧表にしたもの。
12	「比較語彙研究の諸相と広がり」	単	2000・12・16	『比較語彙研究の試み6――国際シンポジウム比較語彙研究Ⅱ――』、pp155～164、名古屋大学大学院国際開発研究科、田島毓堂編	語彙研究の様様な視点を新たに提示し、今後の課題と研究方法を論じたもの。
13	「方言分布と日本語史」	単	2000･1	『国文学解釈と鑑賞』824、至文堂	日本語史研究における方言研究に関係する課題を述べる。

14	「日本語史研究の視点ーー方言国語史の視点」	単	2000･5･27	『国語学会平成 12 年度春季大会要旨集』、2000･5･27、国語学会	方言研究から国語史を見直すための新たな視点と方法を論じる。
15	「方言国語史の視点」	単	2000･12	『国語学』51－3、国語学会	14 の要旨。
16	‘On the Historical Formation of the Japanese Language and Its Dialects’	単	2000･7･24	Proceedings of 3nd International Congress of Dialectologists & Giolinguists, ublin ;The International Society for DialectologyandGiolinguistics	日本語とその方言の歴史的形成過程を、言語層という観点から、新たに捕らえなおして、日本語の成立を考察したもの。
17	「国語の歴史にとって100年という時間」	単	2001･1	『日本語学』20－1、pp6～18、明治書院	21 世紀における日本語が迎える言語状況を、過去の日本語変化の法則を概観することによって展望。
18	「書評　迫野虔徳著『文献方言史研究』」	単	2001･3	『国語学』52－1、国語学会、42－48 頁	表題論文の書評．学会による指名。
19	「東アジア(日本語･韓国語･中国語)の河川地形名の偏在と方言分布･気候との相関」	単	2001･8･18	『韓國日本學會(KAJA)第 63 回學術大會 Proceedings』	東アジアの河川地形名が、方言分布、気候、文化と強い相関関係があることを実証的に証明したもの。
20	「東アジア(日本語･韓国語･中国語)の河川地形名の偏在と方言　分布･気候との相関 配布地図･補論」	単	2001 ・ 12 ・ 10	『玉藻』38、フェリス女学院大学国文学会、11 頁、印刷中	19 の論を証明する地図資料を提示し、併せて補論として、新たな文化圏として「南ユーラシア」文化圏を提示し、アイヌ語の重層性を指摘したもの。
21	「日本語訳　韓国国語学会『国語方言学』第1章」	単	2002･3･1	『フェリス女学院大学文学部紀要』37	拙論と関わる論題の研究書の日本語訳。

教 育 研 究 業 績 書

年　月　日

氏名

	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
1	（学術論文）				

教 育 研 究 業 績 書

年　月　日

氏名

	著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月日	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
1	（学術論文）				